

沖縄島で撮影されたマルスベカサゴ (フサカサゴ科：オニカサゴ属)の稚魚

本村浩之¹・宮原雄介²・加藤昌一³

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

² 〒 905-0011 沖縄県名護市宮里 4-8-41 フィールドライブ

³ 〒 100-1511 東京都八丈島八丈町三根 1364-1 レグルスダイビング

はじめに

フサカサゴ科オニカサゴ属 (*Scorpaenidae*: *Scorpaenopsis*) はインド・太平洋に広く分布し、現在 28 有効種が知られている (Randall and Eschmeyer, 2002; Randall and Greenfield, 2004; Motomura, 2004; Motomura and Causse, 2011; Fricke et al., 2013). このうち、日本からは 13 種が記録されている (本村ほか, 2004; Motomura and Shinohara, 2005; 中坊・甲斐, 2013). 本属は背鰭が 12 棘 9 軟条, 臀鰭が 3 棘 5 軟条, 腹鰭が 1 棘 5 軟条, 眼下骨棘が 3-5 本, 耳棘がある, 不對鰭軟条が分枝する, 胸鰭下方条が不分枝, 側線が尾柄部後端まで延びる, および口蓋骨歯がないことによって特徴付けられる (Randall and Eschmeyer, 2002; Motomura and Senou, 2005).

2019 年 10 月 22 日の夜 10 時頃, 沖縄本島本部町崎本部緑地沖 (26°38'11"N, 127°52'55"E) の水深 2 m の場所で, 中層を浮遊する体長約 8 mm のフサカサゴ科魚類が第 2 著者によって撮影された (Fig. 1). 10 月 24 日に第 3 著者を介して第 1 著者が写真を確認したところ, オニカサゴ属のマルスベカサゴ *Scorpaenopsis macrochir* Ogilby, 1910 に同定された. これまでオニカサゴ属の種名が特

定された稚魚は記録されていないため (小嶋, 2014), ここに報告する.

材料と方法

頭部の棘の名称は Eschmeyer (1969) を和訳した 尼岡 (1984) と本村ほか (2004) に準拠した. 標準体長は体長または SL と表記した. 本報告に用いた水中写真は鹿児島大学総合研究博物館のデータベース (KAUM-II.) に登録されている.

結果と考察

沖縄島で撮影された個体 (Figs. 1-2) は, 背鰭が 12 棘であることと体側が著しく縦扁しないことから, オニカサゴ属, ハタタテカサゴ属 *Iracundus*, ネットアイフサカサゴ属 *Parascorpaena*, フサカサゴ属 *Scorpaena*, およびマダラフサカサゴ属 *Sebastapistes* のいずれかの属であることが分かった. さらに, 写真個体は両眼間隔が眼窩径よ

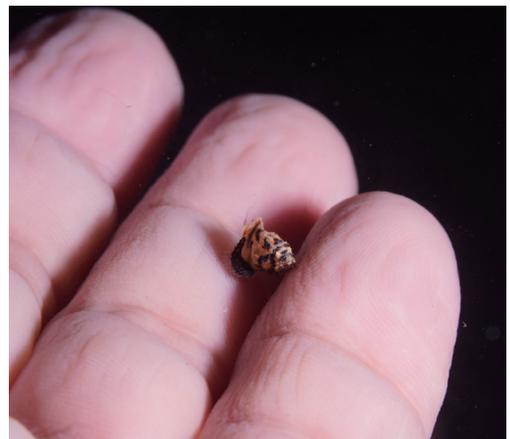


Fig. 1. Underwater photograph of a juvenile of *Scorpaenopsis macrochir* (ca. 8 mm SL) from Okinawa Island, Ryukyu Islands, Japan (KAUM-II. 72). Photo by Y. Miyahara.

Motomura, H., Y. Miyahara and S. Kato. 2019. A juvenile of *Scorpaenopsis macrochir* Ogilby, 1910 (*Scorpaenidae*) found in Okinawa Island, Ryukyu Islands, Japan. *Nature of Kagoshima* 46: 167-169.

✉ HM: The Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp).

Published online: 26 October 2019

http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_046/046-034.pdf



Fig. 2. Underwater photographs of a juvenile of *Scorpaenopsis macrochir* (ca. 8 mm SL) from Okinawa Island, Ryukyu Islands, Japan (same individual with Fig. 1; KAUM-II. 73–76). Photos by Y. Miyahara.

り広いことと胸鰭軟条が17本であることから、オニカサゴ属の次の4種にいずれかであることが明らかである：マルスベカサゴ (Fig. 3), ニライカサゴ *S. diabolus* (Cuvier, 1829), サツマカサゴ *S. neglecta* Heckel, 1837, およびシラユキカサゴ *S. obtusa* Randall and Eschmeyer, 2002. これら4種は成長すると背鰭基底前方で体背縁が著しく隆起するという共通の特徴を有する (Motomura and Shinohara, 2005).

写真個体は胸鰭の中央付近に明瞭な1黒色横帯を有する (Fig. 2). この特徴的な横帯はマルスベカサゴとサツマカサゴでも幼魚から成魚にかけて胸鰭の内側にあることが確認されている (本村ほか, 2004; Motomura and Shinohara, 2005; 中坊・甲斐, 2013). ただし, 両種の幼魚から成魚では, 黒色横帯がより胸鰭の外縁近くに位置するため, 写真個体で胸鰭中央にある横帯は成長に伴って胸鰭の外縁に向かって移動する (つまり胸鰭の基底近くの軟条が先端部の軟条より伸長率が高いこと

によって, 横帯が外縁付近まで移動する) と考えられる.

マルスベカサゴとサツマカサゴは成魚においても互いに酷似しており, (標本がなく) 写真のみで両種を識別するのは経験が必要であるが, サツマカサゴはマルスベカサゴと比較して, 側面からみて吻が細く尖ること (後者は吻が太短く, 丸くみえる) から識別される. 鹿児島大学総合研究博物館に所蔵されているサツマカサゴの幼魚 (体長17.4–30.9 mm; Fig. 4) はすでに吻が尖っており, 吻が短く丸い写真個体が17 mmに成長した段階で急激に吻が尖るとは考えにくい. そのため, 写真個体はこれまで報告がなかったマルスベカサゴの稚魚であると考えられる.

なお, 成長すると背鰭基底前方で体背縁が著しく隆起するという特徴を有する上記の4種は主鰓蓋骨上方棘の後端が複尖頭であるという特徴も共有するが (本村ほか, 2004; Motomura and Shinohara, 2005; 中坊・甲斐, 2013), 写真個体



Fig. 3. Adult of *Scorpaenopsis macrochir* (KAUM-I. 84032, 123.0 mm SL, east coast of Satsuma Peninsula, Kagoshima, Japan).

の主鰓蓋骨上方棘の後端は単尖頭であった。この形質は成長に伴って変化すると考えられる。

小嶋 (2014) はフサカサゴ科の未同定種の稚仔魚 16 種を報告したが、今回の写真個体はそのいずれとも一致しなかった。

比較標本 サツマカサゴ：KAUM-I. 80311, 体長 20.1 mm, 鹿児島県薩摩川内市上甌町桑之浦漁港沖 (甌島列島上甌島), 31°51'48"N, 129°50'23"E, 水深 1.5 m, 2015 年 10 月 17 日, 本村浩之; KAUM-I. 22817, 体長 20.4 mm, 鹿児島県熊毛郡屋久島町栗生カマゼノ鼻西側 (大隅諸島屋久島), 30°16'03"N, 130°24'48"E, 水深 0–4 m, 2009 年 7 月 30 日, 本村浩之; KAUM-I. 130350, 体長 30.9 mm, 鹿児島県鹿児島郡十島村平島南之浜港内 (トカラ列島平島), 29°40'48"N, 129°31'57"E, 水深 4 m, 2019 年 5 月 25 日, 森下悟至; KAUM-I. 200040, 体長 17.4 mm, 鹿児島県南九州市穎娃町別府番所鼻自然公園地先 (薩摩半島南端), 31°14'N, 130°26'E, 水深 0.3 m, 2015 年 9 月 14 日, 岩坪洗樹。マルスベカサゴ：KAUM-I. 84032, 体長 123.0 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦崎ノ山東側 (薩摩半島西岸), 31°25'44"N, 130°11'49"E, 水深 27 m, 2015 年 6 月 4 日, 伊東正英。

■ 謝辞

本報告をまとめるにあたり、文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性・島嶼プロジェクト) 学長裁量経費の援助を受けた。



Fig. 4. Juvenile of *Scorpaenopsis neglecta* (KAUM-I. 200040, 17.4 mm SL, south coast of Satsuma Peninsula, Kagoshima, Japan).

■ 引用文献

- 尼岡邦夫. 1984. フサカサゴ科. P. 296. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編), 日本産魚類大図鑑 (解説). 東海大学出版会, 東京.
- Eschmeyer, W. N. 1969. A systematic review of the scorpionfishes of the Atlantic Ocean (Pisces: Scorpaenidae). Occasional Papers California Academy of Sciences, 79: i-iv + 1-143.
- Fricke, R., P. Durville and T. Mulochau. 2013. *Scorpaenopsis rubrimarginatus*, a new species of scorpionfish from Réunion, southwestern Indian Ocean (Teleostei: Scorpaenidae). Cybium, 37: 207-215.
- 小嶋純一. 2014. フサカサゴ科. Pp. 607-628. 沖山宗雄 (編), 日本産稚魚図鑑 第二版. 東海大学出版会, 秦野.
- Motomura, H. 2004. *Scorpaenopsis insperatus*, a new species of scorpionfish from Sydney Harbour, New South Wales, Australia (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). Copeia, 2004: 546-550.
- Motomura, H. and R. Causse. 2011. A new deepwater scorpionfish of the genus *Scorpaenopsis* (Scorpaenidae) from Wallis and Futuna Islands, southwestern Pacific Ocean. Bulletin of Marine Science, 87: 45-53.
- Motomura, H. and H. Senou. 2005. Validity of the scorpionfish genus *Hipposcrapaena* Fowler and a redescription of *H. filamentosa* Fowler (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). Zoological Studies, 44: 210-218.
- Motomura, H. and G. Shinohara. 2005. Assessment of taxonomic characters of *Scorpaenopsis obtusa* and *S. gibbosa* (Scorpaenidae), with first records of *S. obtusa* from Japan and Australia and comments on the synonymy of *S. gibbosa*. Cybium, 29: 295-301.
- 本村浩之・吉野哲夫・高村直人. 2004. 日本産フサカサゴ科オニカサゴ属魚類 (Scorpaenidae: *Scorpaenopsis*) の分類学的検討. 魚類学雑誌, 51: 89-115.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013. フサカサゴ科. Pp. 683-706, 1939-1946. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Randall, J. E. and W. N. Eschmeyer. 2002 (dated 2001). Revision of the Indo-Pacific scorpionfish genus *Scorpaenopsis*, with descriptions of eight new species. Indo-Pacific Fishes, 34: 1-79.
- Randall, J. E. and D. W. Greenfield. 2004. Two new scorpionfishes (Scorpaenidae) from the South Pacific. Proceedings of the California Academy of Sciences, 55 (19): 384-394.